

森づくりの最前線

福島森林管理署 土湯森林事務所 首席森林官 石井 浩



一切経山からの吾妻小富士



「魔女の瞳」コバルトブルーの五色沼



「きぼっこの森」探索へ出発



新たに導入されたコンテナ苗

土湯森林事務所は、福島県中通り地方の福島市西部に位置し、山形県境に沿って東西に伸びる吾妻連峰の東側から安達太良連峰の北側に位置する鬼面山、箕輪山の東側にかかる磐梯朝日国立公園を含む約8,900㍍を管理しています。

吾妻連峰の東側に位置する一切経山、東吾妻山、吾妻小富士の中心の浄土平には、ビジターセンターや駐車場が整備されており、今年からアクセス道の磐梯吾妻スカイラインの通行料が無料化されたこともあり、観光や登山などで大変な賑わいとなっています。

この一帯の大きな特徴は、ダイナミックな火山地帯と動植物による変化に富んだ自然景観の広がりです。とりわけ高山植物・沼の数々は、訪れる人々を癒してくれ、浄土平から吾妻小富士へは、1時間程度と気軽に登山を楽しむことができます。

また、管内には土湯温泉・微温湯温泉・あずま温泉・高湯温泉などがあり、地元観光協会・学校・新聞社等と連携し森林教室・自然観察会・フォトコンテスト等が実施されています。

「道の駅つちゆ」に隣接している標高700㍍から800㍍の南沢スポーツ林内には、多くの人達に自然観察など森林とのふれあいを深めることのできるように整備した「きぼっこの森」約31㍍が設定されています。

「きぼっこ」とは、昔から土湯地域で呼ばれてきた「こけし」の呼び方の一つで、地元土湯小学校の児童たちからの公募によりネーミングされたものです。

この「きぼっこの森」には、こけしの原料となるウリハダカエデ・ナナカマド・ミズキなどの広葉樹がアカマツと混交した林相となっています。

自然条件にも富み、130種の草や90種の樹木のほか、鳥類、昆虫類、両生類の種類も豊富で、林内にある湿地には、水芭蕉が咲き、モリアオガエルが生息し、繁殖期になると水際の樹木の枝に「泡巣」と呼ばれる生み付けた卵塊も観察することができます。

散策路は、約4㍍にわたり木道やウッドチップなどで整備され、林内には案内板・樹名板が設置されており、気軽に散策することができ、東屋からは、南の安達太良山から北の一切経山までのすばらしい眺めを一望できます。

これらの整備に併せて、「きぼっこの森」を核とした楽しみ方や学び方などについて紹介した「土湯地域における森林・林業体験プログラム」の冊子を作成し、市内の小・中学校などへ配布し、森林環境教育を目的とした森林教室や自然観察等の体験活動フィールドとして活用を図っています。

また、当事務所管内では、従来からの森林の管理、育成に加え、スギのコンテナ苗の導入など新たな試みにもチャレンジしています。

このように、新たな森づくりや森林環境教育の推進など、開かれた「国民の森」としての取り組みを進めていくことはとても重要なことではないかと考えています。